

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21021

建築物名称	(仮称)小台一丁目計画新築工事
建築主	株式会社成建 代表取締役社長 常盤 孝一
建築物の所在地	川崎市宮前区小台一丁目1番1
設計者氏名、建築士事務所名	松鹿 明生 有限会社松鹿設計製作所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,633.66㎡
用途	共同住宅、事務所、美容院、診療所、物販店舗
構造	鉄骨造
階数	地上9階
工事完了年月	令和5年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小台一丁目計画	階数	地上9F
建設地	川崎市宮前区小台一丁目1番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・準防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 竣工	評価の実施日	2021年9月10日
敷地面積	756㎡	作成者	松鹿設計事務所
建築面積	538㎡	確認日	
延床面積	2,622㎡	確認者	

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外の 97%
④上記+ 97%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合 植栽による良好な景観の形成 屋上緑化の採用	2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	庇及びカーテンの2種類でグレアを制御	1.1/1.8	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合 屋上緑化の採用	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		3.3/5.0	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い建材の採用	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.3/4.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合 屋上緑化の採用	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		3.3/5.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		3.3/5.0	3.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40		-	3.1
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00	3.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					T-2以上	5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能						5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御						2.2	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		W				1.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.3	0.25	3.6	1.00	2.9
3.1 昼光利用						1.8	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率					昼光率:3.5%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御		W			庇及びカーテンの2種類でグレアを制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.2	0.25	3.8	1.00	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/5.6以上の窓を確保	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.1	
1 機能性					3.0	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応				3.0	1.00	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観			天井高: 2.62m			4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	1.00	3.0	0.50	
3	内装計画				3.0	0.30			
1.3 維持管理					3.0	0.50			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		住宅専用部 床: CF20年、壁・天井: PB下地付貼20年程度	4.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		汚水管: 耐火2層管VP(B)、雑排水管: 耐火2層管VP(B)、給水管: ポリエチレン管(B)、上位3種の2種以上にB使用、Eは不使用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20			
2.4 信頼性					2.6	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.6	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり							4.2	0.50	
1	階高のゆとり			階高3.15m			5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W				1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.0			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H						3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用	W	H						2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEQ][BEIm] =	0.93				3.7	0.50	-	-	3.7
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価												
	4.1 モニタリング	W	H										
	4.2 運用管理体制	W	H										
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	W	H						3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	W	H						3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	2.8
1	水資源保護	W	R						3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無										-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	-	2.8
	2.1 材料使用量の削減	W	R						2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R						3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R			-			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R			-			1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R						2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R				躯体+軽鉄+仕上材による躯体と仕上材が容易に分別可能な工法の採用		5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	W							-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	W							3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	W							3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境										0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮	W					ライフサイクルCO2排出率97%		3.1	0.33	-	-	3.1
2	地域環境への配慮								2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W						3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R			2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	